

令和 4 年 5 月 31 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K14527

研究課題名（和文）追加的情報に対するリスク認知プロセスの解明とリスクコミュニケーション手法の効率化

研究課題名（英文）Elucidating the risk perception process for additional information and improve the efficiency of risk communication methods

研究代表者

石田 貴士（ISHIDA, Takaashi）

千葉大学・大学院園芸学研究院・助教

研究者番号：30623467

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：リスク評価に対する確信が、消費者の不安形成に果たす役割を分析し、リスクを小さく評価している消費者であっても、その評価に対し確信がないと不安が大きくなり、一方で、リスクを大きく評価している消費者は、その評価への確信が強いと不安を強くすることを示した。この結果は、リスクコミュニケーションにおいてリスク評価へのアプローチだけでなく、その評価への確信に対するアプローチが必要なことを示している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

消費者は、しばしば食品添加物や農薬、食品照射など食の安全性リスクを実際よりも過大に認知し、いわゆる風評被害を引き起こしている。一方で、ソラニンなどの自然毒やサプリメントの過剰摂取、肥満などに対するリスクを過小に評価し、健康被害の原因となっている。このようにリスク認知にバイアスがあると、消費者はリスクに対して最適な行動をとれず、市場の失敗が起こる。したがってリスクコミュニケーションなど追加的な情報の付与により、消費者のリスク認知のバイアス緩和が求められている。本研究課題の成果は、心理的・認知的要因が消費者の認知形成に与える影響を明らかにし、リスクコミュニケーションの効率化に寄与すると考えられる。

研究成果の概要（英文）：We analyzed the role of confidence in risk assessment in the formation of consumer anxiety. As a result, we found that even consumers who estimate risk as small become more anxious, while consumers who estimate risk as large become more anxious when they are more confident in their assessment. This result indicates that in risk communication, an approach to risk assessment and an approach to confidence in that assessment is necessary.

研究分野：消費者行動論

キーワード：リスク認知 リスクコミュニケーション 情報処理プロセス ヒューリスティック

1. 研究開始当初の背景

消費者はしばしば食品の安全性リスクを実際よりも過大もしくは過小に認知する。たとえば食品添加物や農薬、食品照射などに対する過剰な不安は、いわゆる風評被害の原因となる。一方で、ソラニンなどの自然毒やサプリメントの過剰摂取、肥満などに対するリスクの過小評価は、健康被害の原因になる。リスク認知にバイアスがあると、消費者はリスクに対して最適な行動をとれず、市場の失敗が起こる可能性がある。さらに、たとえば全量検査のような過剰な対策を行うと、流通コストが高むことにもつながる。したがってリスクコミュニケーションなど追加的な情報の付与により、消費者のリスク認知のバイアス緩和が求められる。しかし現実のリスクコミュニケーションは、必ずしも順調とは思えず、社会的なコストを最小にするという意味での効果的なリスクコミュニケーション手法を構築することがいまなお重要な政策課題であるといえよう。そのための前提としては、消費者のリスク認知がどのように形成され、消費者は追加的に与えられたリスク情報をどのように処理しリスク認知を更新するのかを解明することが必須の課題である。

2. 研究の目的

本研究課題の目的は、効率的なリスクコミュニケーション手法を構築することにある。そのために、アンケート調査などに得られたデータを計量経済学的手法などを用いて、消費者の不安が形成されるプロセスや、新しく与えられた情報に対し、消費者がどのように認知し、態度変更を行うかを定量的に評価する。

特に、消費者が自身の認識と異なる情報を選択的に排除する認知的不協和や外部情報より自身の評価・思い込みに強いウェイトを置く自信過剰バイアス、リスク情報がコンフリクトした時に、リスクを大きく評価する情報に強いウェイトを置く conflict averse、認知に歪みをもたらす多様なヒューリスティック、与えられた情報に対する精緻化のプロセスが情報を処理する能力と動機によって規定されるとする精緻化見込みモデルなどリスク認知に関する心理的、認知的要因に注目し、それらがリスク認知に与える影響を分析する。

また、リスクコミュニケーション前後で消費者のリスク認知や食品の安全性に対する知識や認識がどのように変化するのかについても着目し、情報に対する消費者の処理プロセスを解明することで、消費者の意識や態度を変容させやすいコミュニケーションの解明を目指す。

3. 研究の方法

消費者のリスク認知形成に影響を与える要因および、新しく与えられた情報に対する処理プロセスに影響を与える要因を明らかにするために、以下の3つの分析を行う。

(1) 消費者のリスク評価、リスク評価に対する確信、及び、許容可能なリスク水準によって説明される消費行動モデルを開発し、リスク評価に対する確信が、消費者の不安形成に果たす役割を分析した。

(2) 精緻化見込みモデルを援用し、高校生に地元の伝統野菜についての情報を提供した時に、食や地域、農業への関心および親近感によって、その伝統野菜に対する態度の変化に違いが見られるかを二変量プロビットモデルにより検証した。

(3) 食品の多様な安全性リスクに対する不安の形成に対し、ヒューリスティック、精緻化見込みモデル、ゼロリスクバイアスなどの心理的、認知的要因が果たす役割を明らかにした。具体的には、因子分析により食品関連リスクに対する不安を分類し、因子得点を被説明変数、心理的、認知的要因のスコアを説明変数とした SUR モデルの推計を行った。

4. 研究成果

(1) リスクを小さく評価している消費者であっても、その評価に対し確信がないと不安が大きくなり、リスク大きく評価している消費者では、そのリスク評価に対して確信を持つことでより不安が大きくなることを示した。この結果は、消費者の食の安全に対する不安を緩和するためのリスクコミュニケーションにおいては、消費者のリスクに対する評価を下げるだけでなく、確信にもアプローチすることが必要であることを示唆している。

(2) 関心や愛着を高めるためには、伝統野菜についての紹介だけでなく、食や、地域、農業への関心を高めることや、伝統野菜に触れる機会を増やし、親近感を高めておくことが効果的であることを示した。

(3) 食品関連リスクに対する不安は、人工のリスクに対する不安、生物学的リスクに対する不安、食生活のリスクに対する不安に分類されることが示された。また、それぞれのリスクに対する不安は、異なる心理的、認知的要因が影響することが明らかになった。すなわち、ヒューリス

ディックな情報処理を行う傾向がある消費者は、生物学的リスクに対して不安を強く感じやすい。確率・統計のリテラシーの高い消費者や、食品の安全性に対して知識があると認識している消費者は、食品関連リスクに不安を感じやすい。政府機関に対する信頼が低い人は、人工および生物学的リスクに対する不安を強く感じやすい。食品中に含まれるリスクを完全にゼロにすることができると考えている消費者は、人工のリスクに対する不安が高くなりやすい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Ishida Takashi, Maruyama Atsushi, Kurihara Shinichi	4. 巻 11
2. 論文標題 Risk Communication under Conflicting Information: The Role of Confidence in Subjective Risk Assessment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Food Research	6. 最初と最後の頁 1~1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5539/jfr.v11n1p1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石田 貴士、藤井 光、松井 諒介	4. 巻 76
2. 論文標題 高校生の地元産農産物に対する関心と食・地域・農業への関心および親近感	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 食と緑の科学 = HortResearch	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/s18808824-76-p1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 門澤真希 , 石田貴士 , 丸山敦史
2. 発表標題 思考・認知パターンおよび統計リテラシーが食品の安全性に関する不安形成に与える影響
3. 学会等名 フードシステム学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------